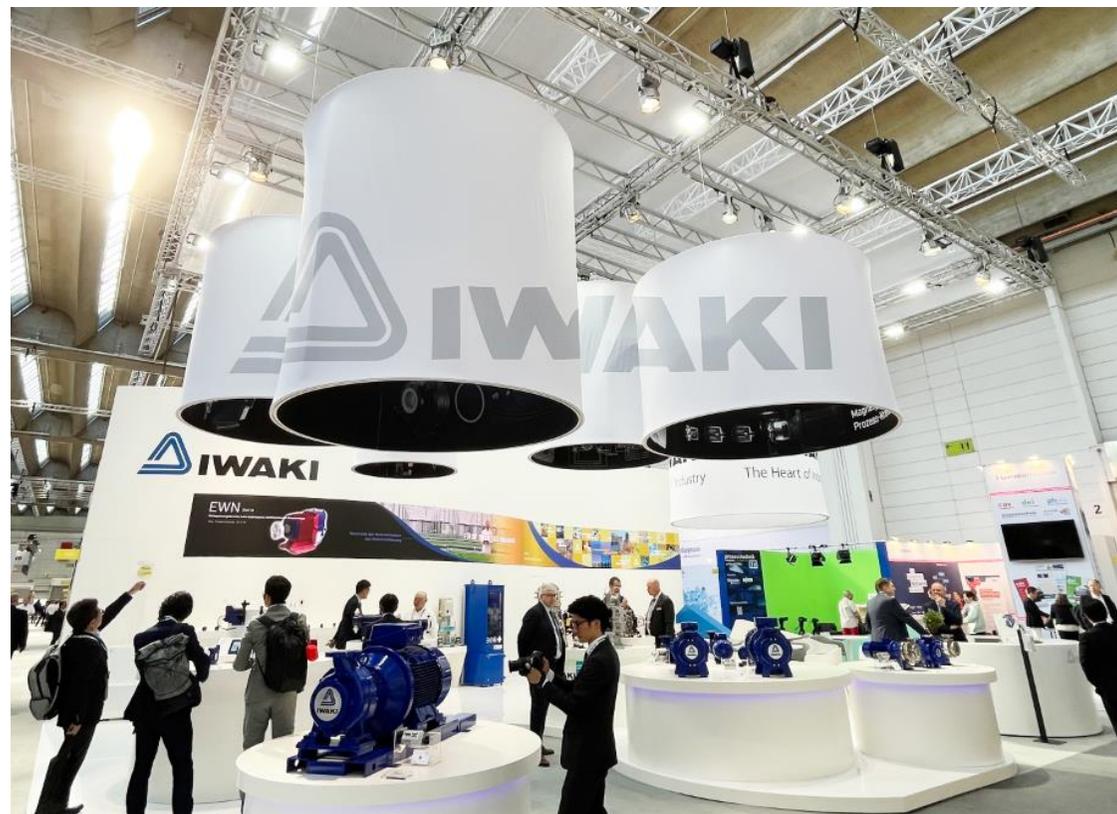




The Heart of Industry

2025年3月期
第2四半期 決算説明資料

2024年11月14日



ACHEMA 2024（独・フランクフルト） 展示会の様子

株式会社イワキ 証券コード：6237
銘柄名：イワキポンプ

I . 2025年3月期 第2四半期 決算概要 **P.3**

II . 2025年3月期 業績見通し **P.14**

III . 今後の取り組みについて **P.19**

IV . Appendix **P.23**

I . 2025年3月期 第2四半期 決算概要

2025年3月期 2Q 決算サマリー



医療機器市場と化学市場が全体を牽引し増収したものの、半導体・液晶市場は未だ回復せず、大型展示会や人件費等の費用増により営業利益以下の各段階利益は前年同期比減となった。

	2024.3期 2Q		2025.3期 2Q	
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	差額	増減率 (前年同期比)
売上高	22,436	22,540	103	+0.5%
売上総利益 (売上総利益率)	8,925 (39.8%)	9,227 (40.9%)	301	+3.4%
営業利益 (営業利益率)	2,805 (12.5%)	2,771 (12.3%)	▲33	▲1.2%
経常利益	3,270	3,102	▲167	▲5.1%
親会社株主に帰属する 中間純利益	2,188	2,173	▲15	▲0.7%
1株当たり中間純利益	99.46 円	98.37円	▲1.09 円	▲1.1%
為替レート (期中平均)	ドル	134.99 円	152.36円	
	ユーロ	145.92 円	164.69円	
	中国人民幣元	19.45 円	21.06円	

1 売上高：医療機器市場と化学市場が全体を牽引し増収。

- 医療機器市場は国内向けを中心に順調に推移。同市場米国向けも引き続き好調。
- 半導体・液晶市場の落ち込みにより、アジア向けだけでなく中国（上海）向けも低調に推移した。
- 化学市場は国内向けを中心に好調であった。
- 欧州向けは主要6市場以外である冷却用途（プロジェクターの光源冷却等）が好調であった。

2 営業利益：大型展示会費用や人件費等の販管費増加により減益。

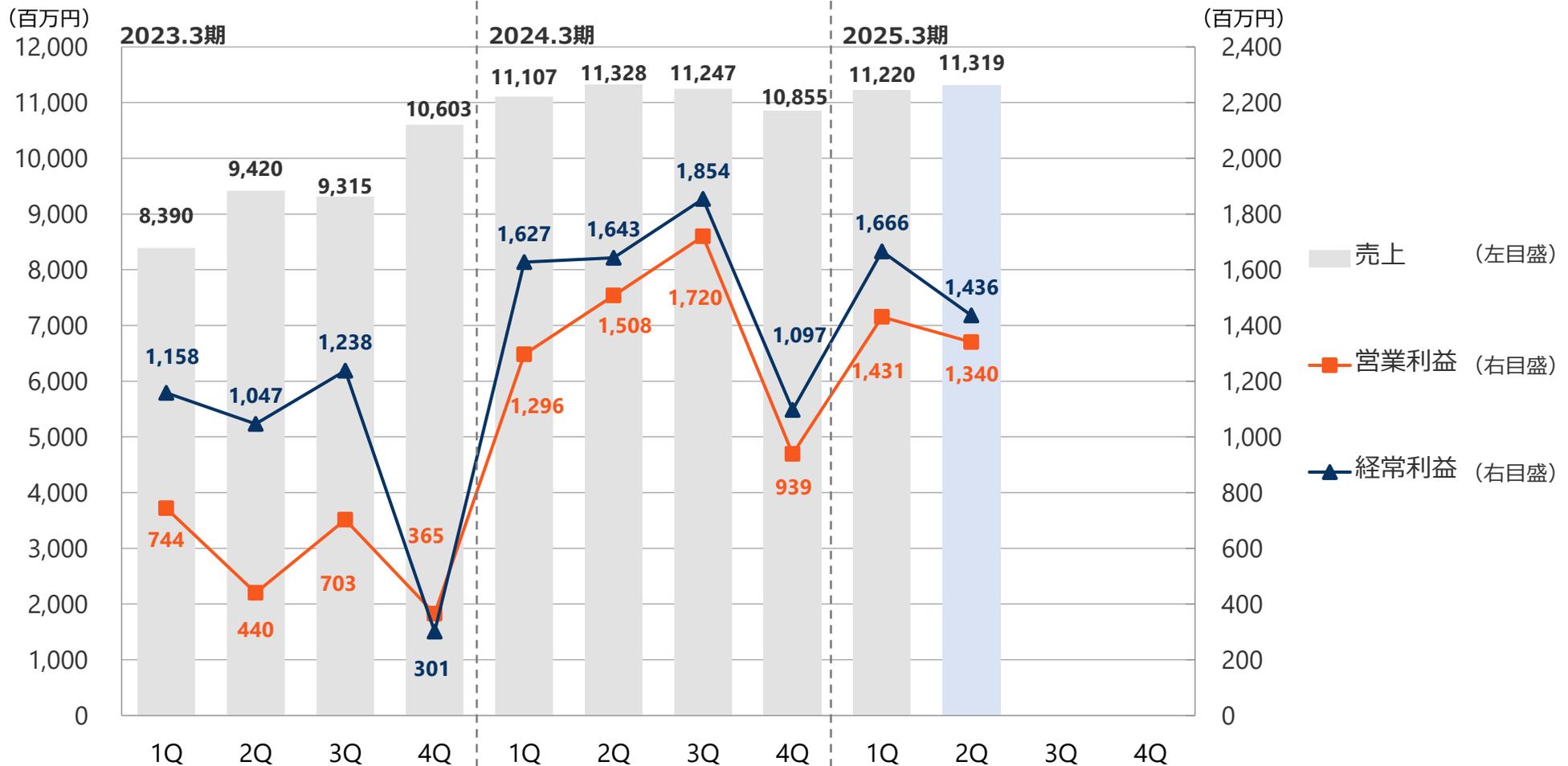
- 部材調達価格の上昇はあるものの、原価率の高い製品の割合が減少し、売上総利益は前年同期比増。
- 大型展示会費用や人件費増によりコストが増加。

3 親会社株主に帰属する中間純利益：持分法による投資利益減少等により減益。

- 半導体・液晶市場が全体的に不調であり、当該影響により直前四半期に引き続き韓国の不調状況が続いている。

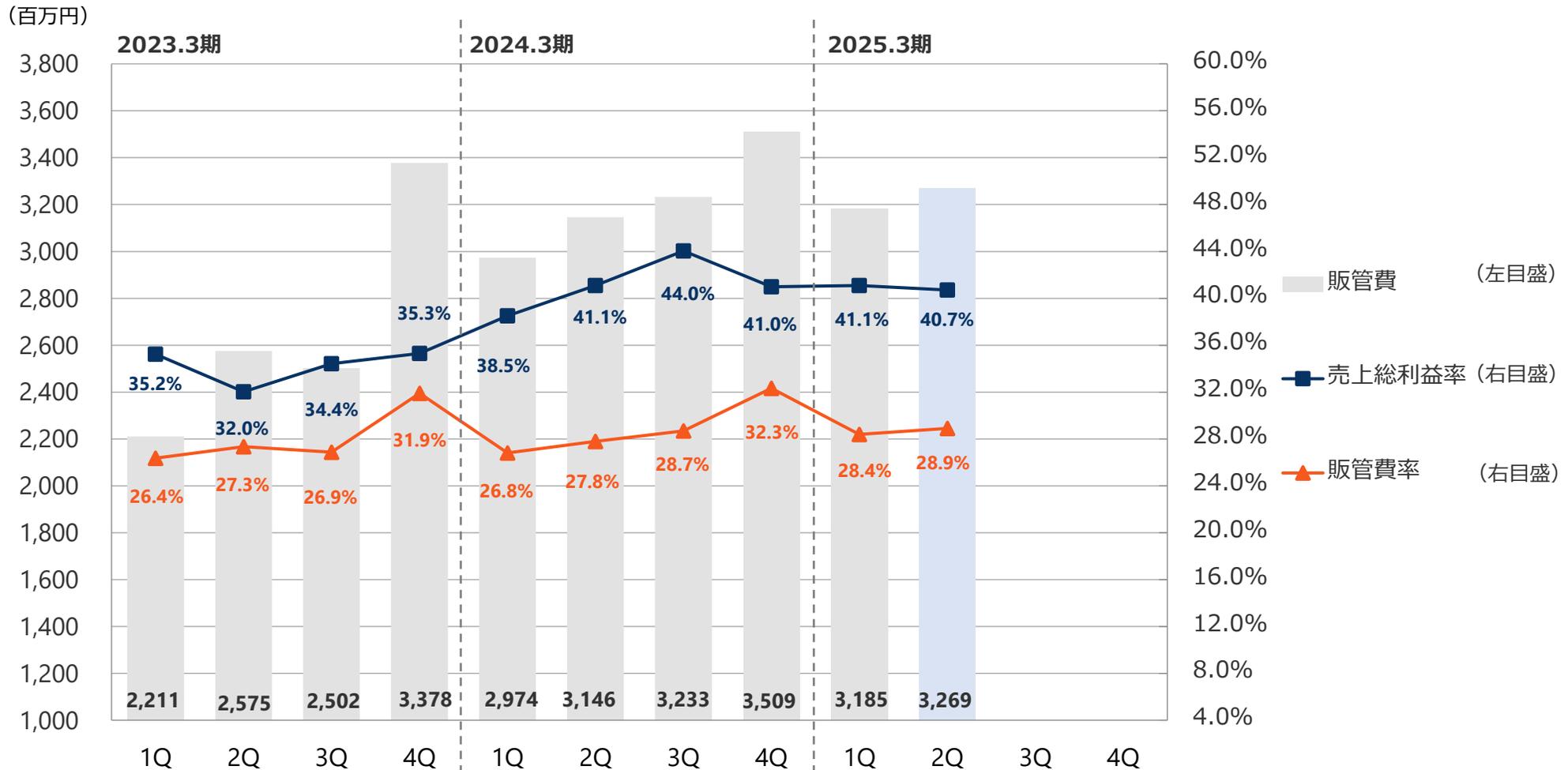
売上高・営業利益の推移（四半期ベース）

化学市場に牽引され、売上高は直前四半期比増。
賞与等の費用増により営業利益は直前四半期比減となった。



売上総利益率・販管費（率）の推移（四半期ベース）

販管費増はあるものの、直前四半期と同水準で推移。

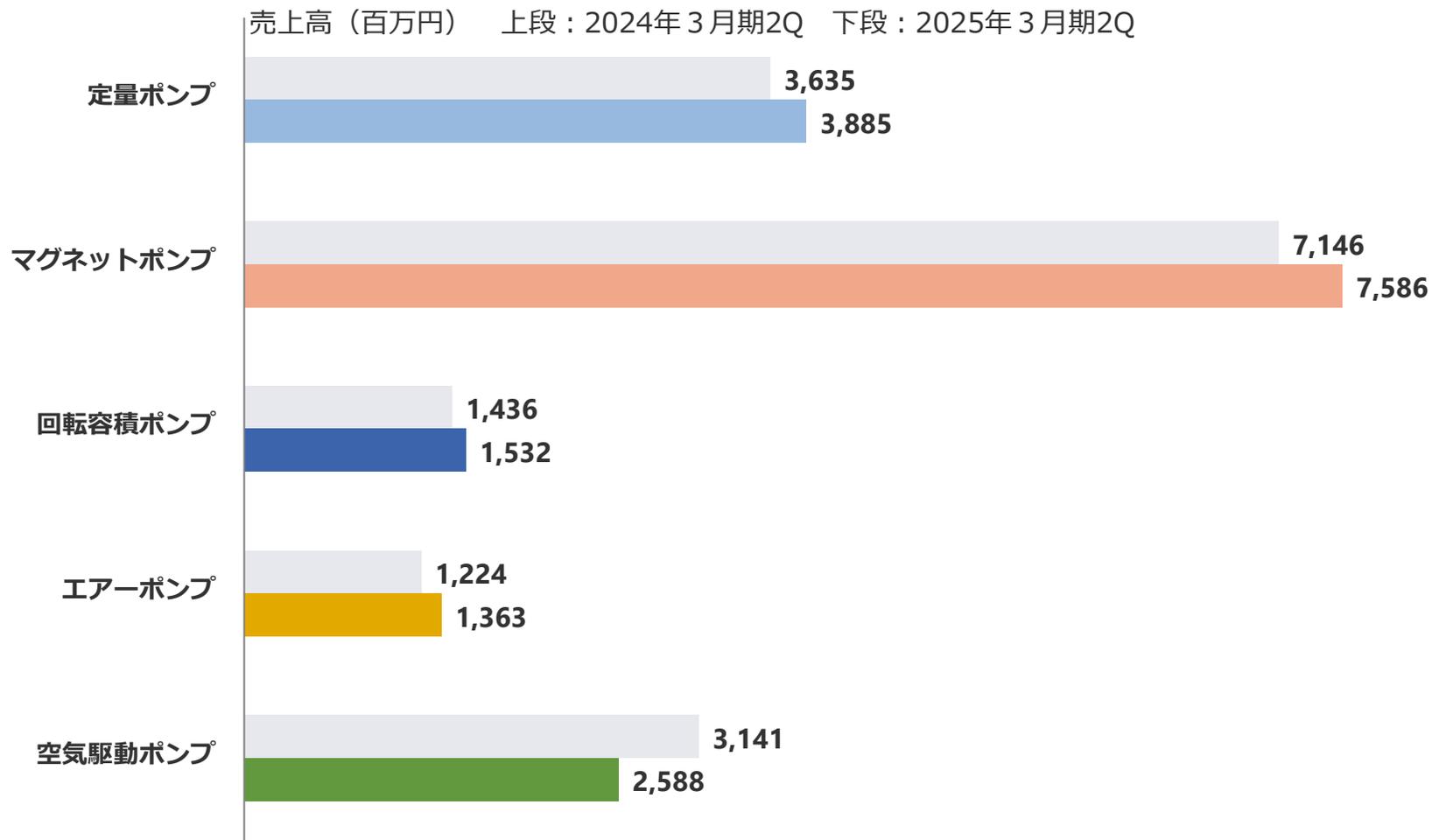
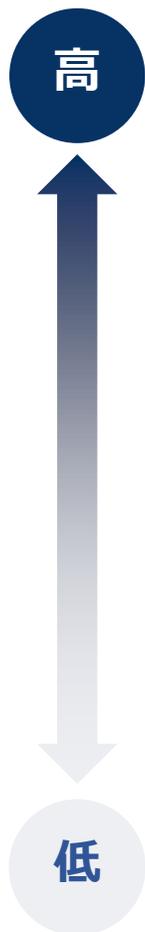


製品別 販売市場について

マルチ市場 への販売	主なポンプ 用途	マグネット ポンプ 	定量ポンプ 	空気駆動 ポンプ 	回転容積 ポンプ 	エアー ポンプ 	システム 製品 
半導体・ 液晶市場	半導体製造装置 他	●	○	●			○
医療機器市場	人工透析装置 臨床分析装置 他	○	○		●	●	○
表面処理装置 市場	プリント基板製造装置 電子部品製造 他	●	○				○
化学市場	化学薬液製造 他	●	○		○		○
水処理市場	浄水場 排水処理場 クーリングタワー 他	○	●		○	○	○
新エネルギー 市場	再生可能エネルギー 二次電池製造 他	○	○		●		○
その他 (食品・製紙等)	食品洗浄 各種冷却用途 他	○	○		●	○	○

※ 塗りつぶし：各市場におけるメインポンプ

収益性の高・低



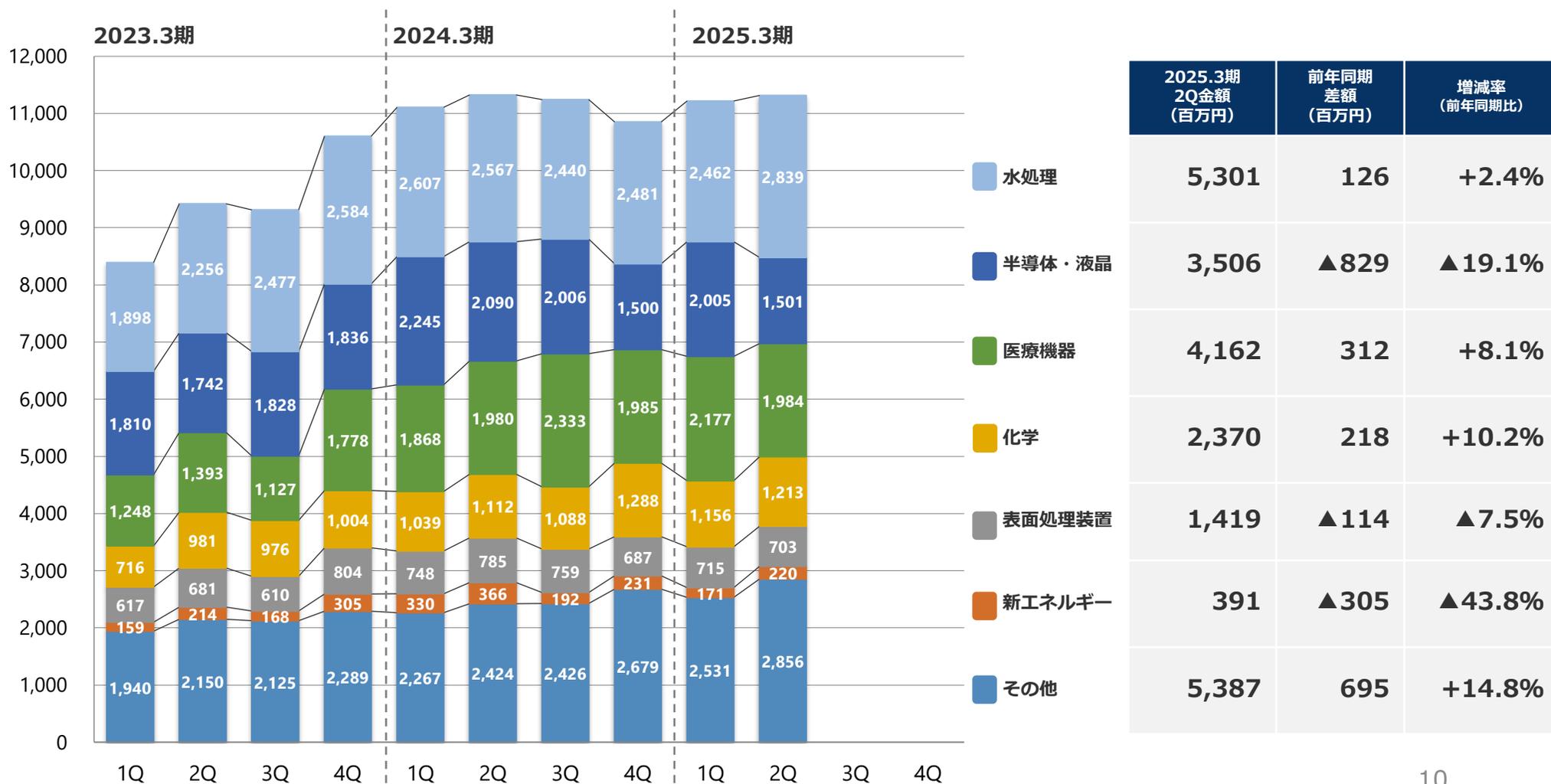
※システム製品、仕入商品、その他除く

市場別売上高

化学市場が国内向けを中心に好調。

医療機器市場は直前四半期比では若干減となったものの、累計期間では増収を維持。

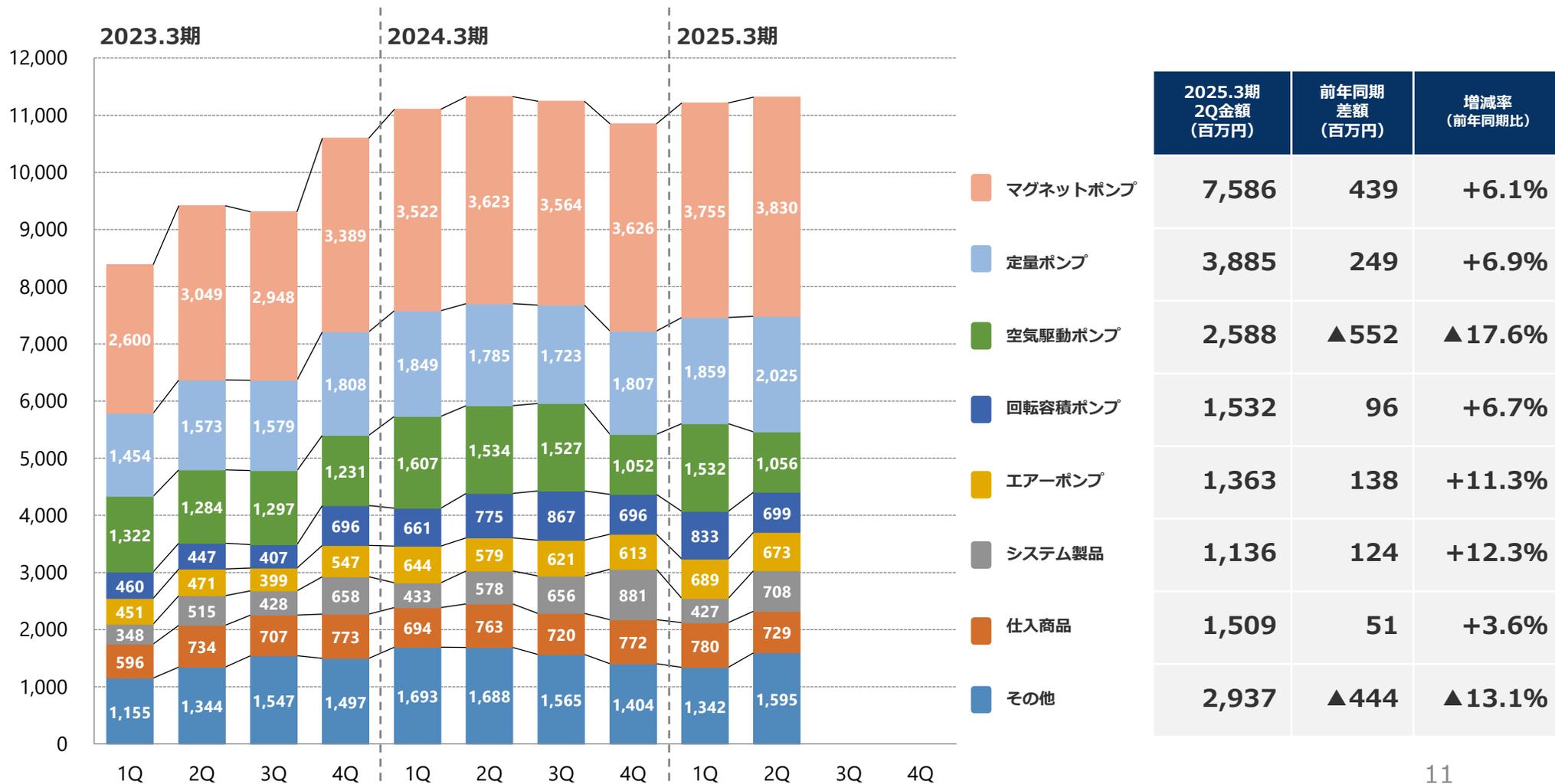
半導体・液晶市場の落ち込みは継続しており、前年同期比、直前四半期比どちらも減少した。



製品別売上高

主力製品であるマグネットポンプ、定量ポンプは順調に推移。

半導体・液晶市場の落ち込み影響を受け、同市場をメインとする空気駆動ポンプは前年同期比減となった。

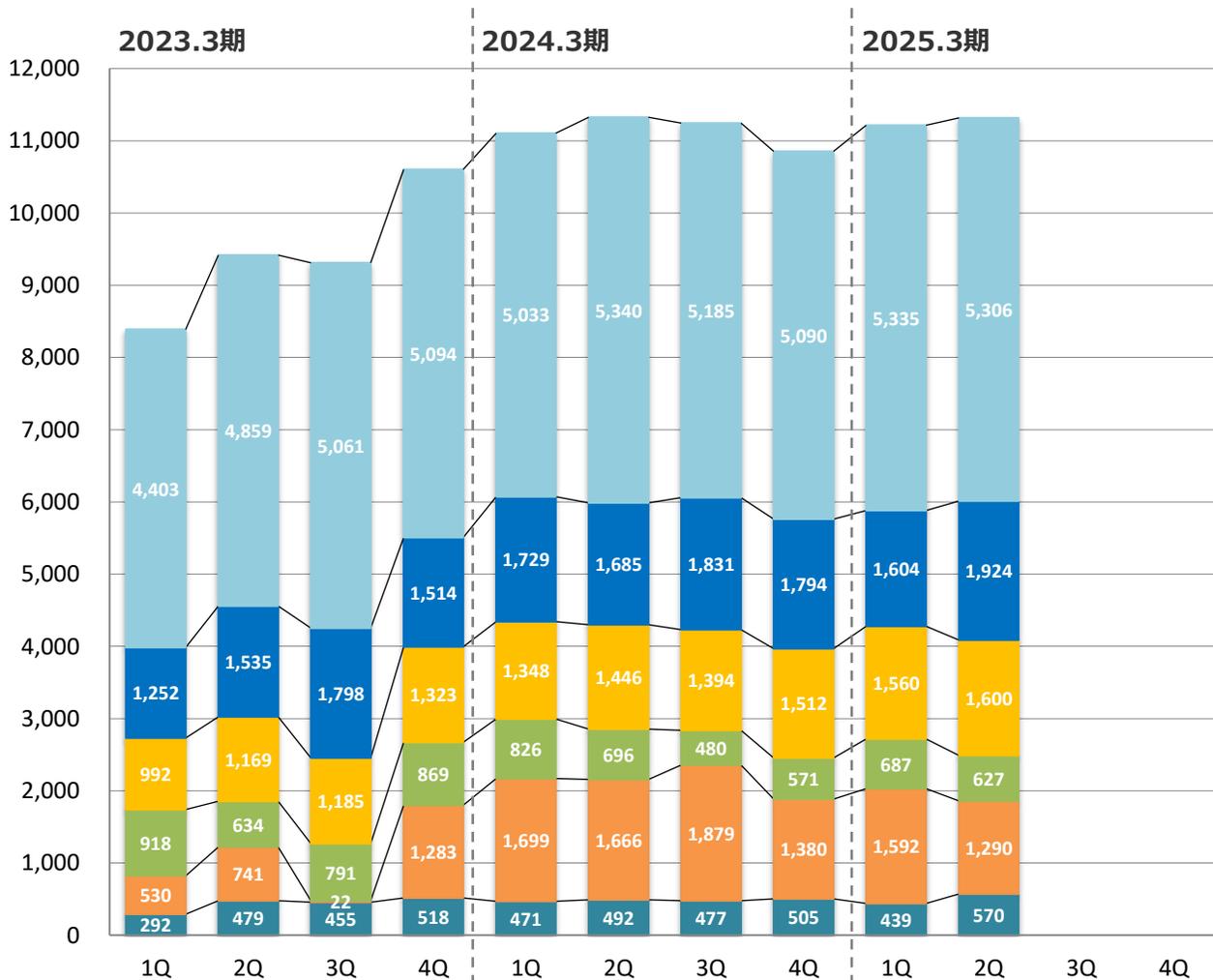


地域別売上高

全体的に半導体・液晶市場の落ち込み影響を受けた。

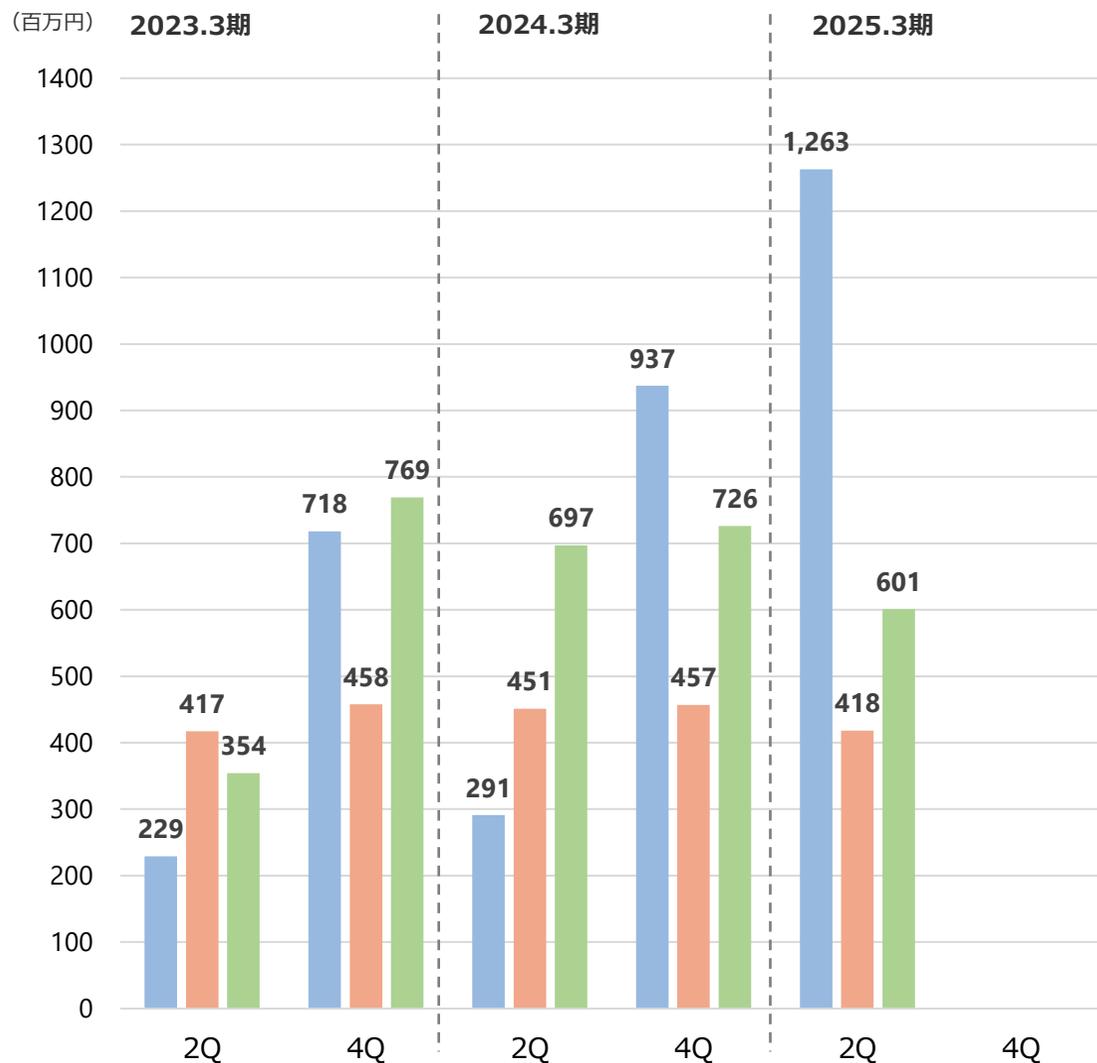
国内向けは医療機器市場が順調、化学市場も好調に推移。米国向けは医療機器市場が好調。

欧州向けは主要6市場以外である冷却用途が伸長。



	2025.3期 2Q金額 (百万円)	前年同期 差額 (百万円)	増減率 (前年同期比)
日本	10,641	267	+2.6%
米国	3,529	113	+3.3%
欧州	3,160	366	+13.1%
アジア	1,314	▲208	▲13.7%
中国	2,883	▲482	▲14.3%
その他	1,010	45	+4.8%
海外合計 (海外売上比率)	11,898 (52.8%)	▲164	▲1.4%

設備投資・研究開発費・減価償却費推移（半期毎）



	2025.3月期 2Q累計金額 (百万円)	増減額 (前年同期比)
■ 設備投資	1,263	+971
■ 研究開発費	418	▲33
■ 減価償却費	601	▲96

※2025.3期2Q設備投資額の大幅増は、主にイワキアメリカの建物賃貸借契約更新によるもの。

Ⅱ. 2025年3月期 業績見通し

2025年3月期 業績予想

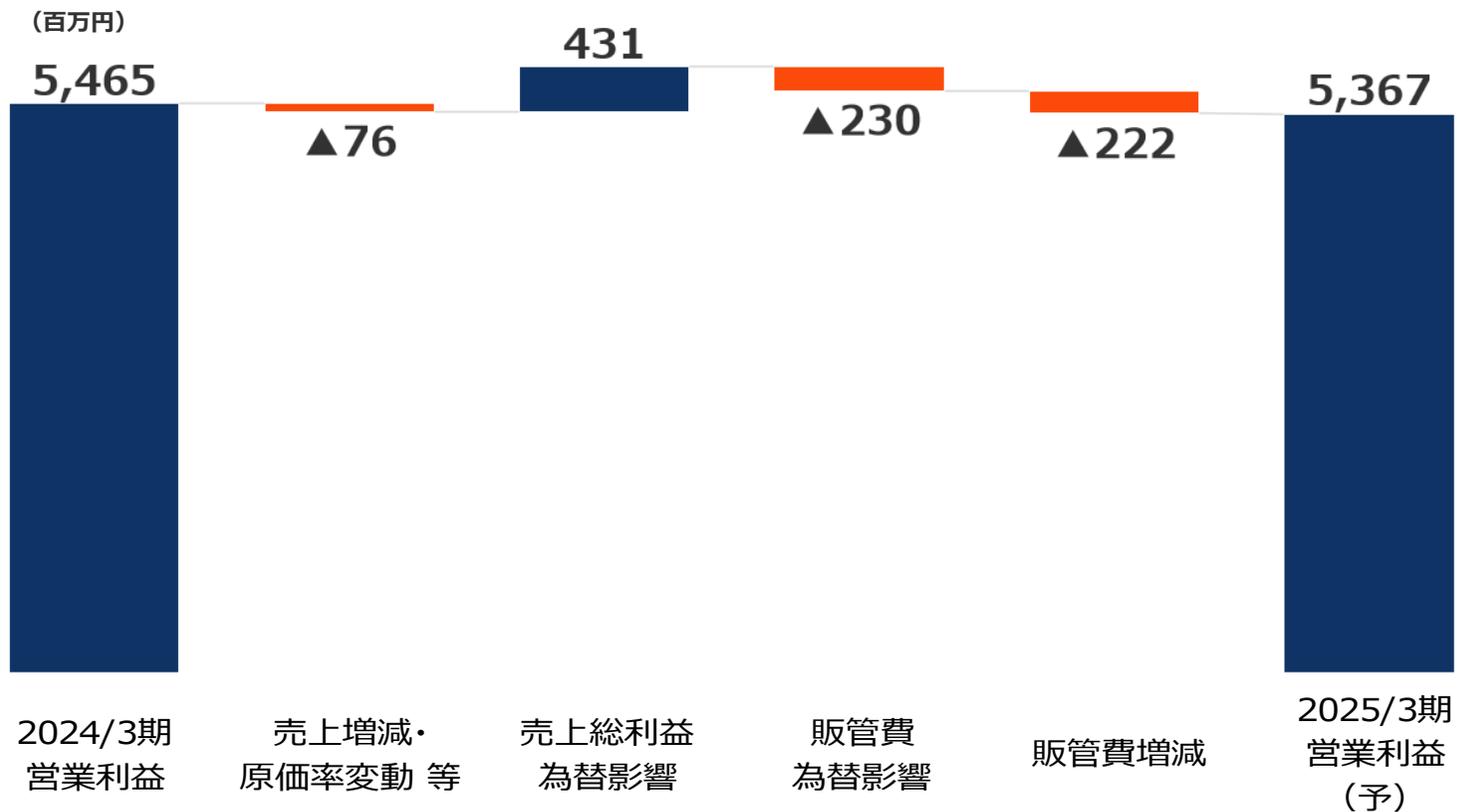
国内は売上堅調予想であるが、期ズレにより3/4会計期間取込み済みの海外は減収予想で、大型展示会費用や賞与等のコスト増を織り込み、また、先行き不透明感もある為、当初予算通り営業利益以下の各段階利益は減益の見込み。

	2024.3期		2025.3期	
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	差額	増減率 (前年比)
売上高	44,539	47,575	3,036	+6.8%
売上総利益 (売上総利益率)	18,328 (41.2%)	18,683 (39.3%)	355	+1.9%
営業利益 (営業利益率)	5,465 (12.3%)	5,367 (11.3%)	▲97	▲1.8%
経常利益	6,222	5,821	▲401	▲6.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,459	4,193	▲266	▲6.0%
1株当たり当期純利益	202.32円	189.92円	▲12.39円	▲6.1%
自己資本当期純利益率 (ROE)	14.4%	12.1%	—	(▲2.3pt)
投下資本利益率 (ROIC)	12.8%	11.4%	—	(▲1.4pt)
為替レート (期中平均)	ドル	140.66 円	146.00 円	
	ユーロ	152.10 円	159.00 円	
	中国人民幣元	19.82 円	20.30 円	

2025年3月期 業績予想 増減益分析

通期： 為替1円当たりの感応度	USドル	ユーロ	中国人民元
売上	69百万円	39百万円	360百万円
営業利益	9百万円	12百万円	142百万円

※為替影響は、子会社グループ内の主要取引通貨にて計算しております。
 香港Gにおける為替影響は香港ドルにて計算しておりましたが、当2Qより同社Gの主要取引通貨である人民元に含めて算定しております。

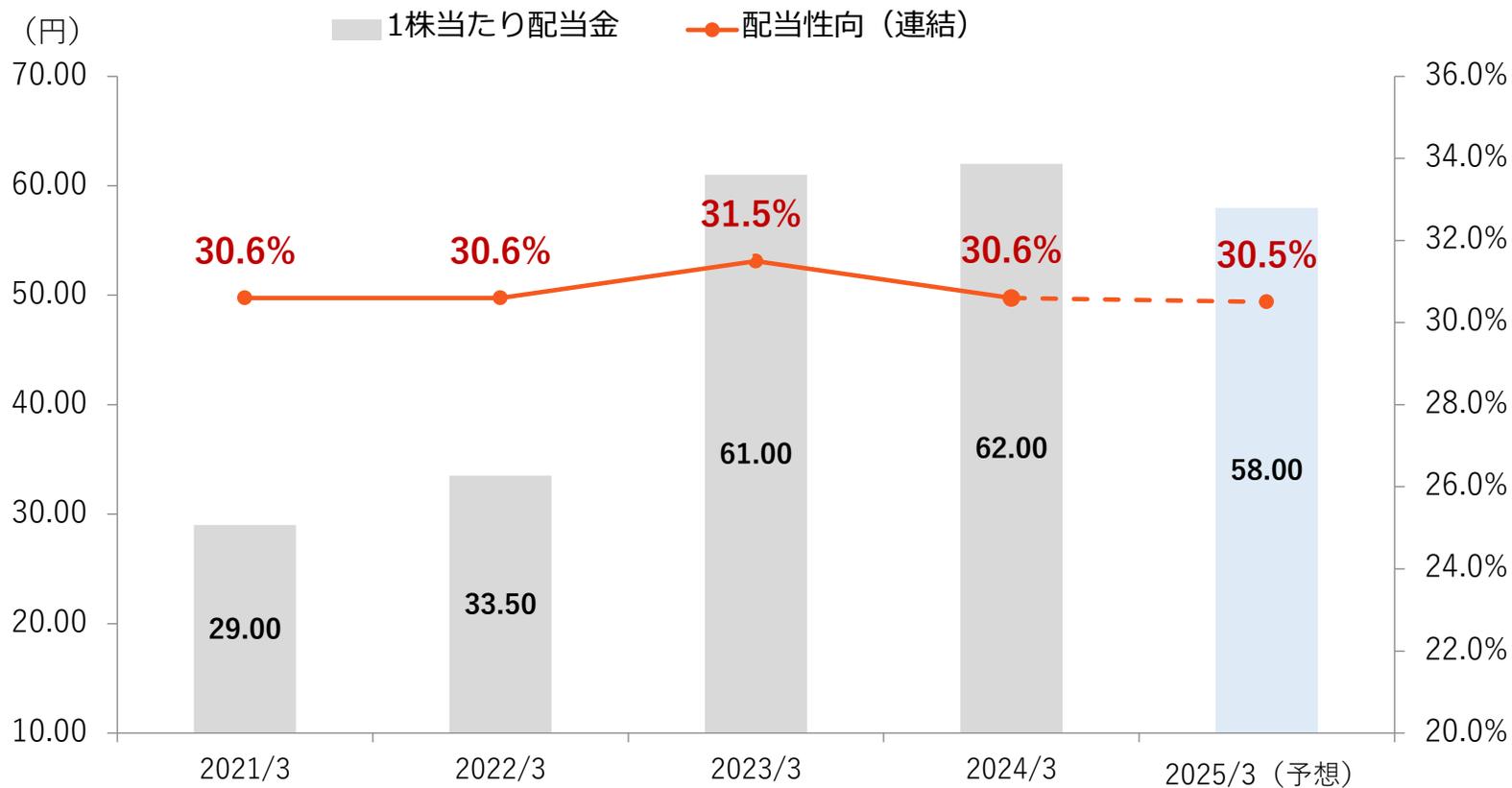


各市場	国内	海外
水処理市場	<ul style="list-style-type: none"> 官需修繕案件が堅調、民需は一般産業廃水が好調を継続。 インバウンド需要の増加に伴い、滅菌市場、イオン水市場が好調。 食の安心安全、災害対策等の観点より、滅菌市場、水耕土耕栽培市場が好調。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害対策に関する上下水道の整備投資が堅調。 一般産業向けの設備投資が堅調。
医療機器市場	<ul style="list-style-type: none"> 市場全体としては各社材料調達難の影響を回避するため、先行手配していた各種部材が過剰気味となっていることから、在庫調整が続いており、低調気配。 内視鏡洗浄装置は部材在庫が過剰気味で、低調気配。 人工透析装置については緩やかではあるものの回復傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 市場全体としては装置メーカー各社在庫調整が行われているため低調に推移する見込み。 臨床検査装置（免疫分析装置＋生化学分析装置）の物流の混乱は徐々に落ち着きを取り戻しつつあるが、装置メーカー各社の生産調整により、低調に推移する見込み。
新エネルギー市場	<ul style="list-style-type: none"> セルメーカー、材料メーカーで投資が継続。 電池リサイクルは活発化の動き。 水素関連の開発・投資が増加傾向。 家庭用燃料電池は国の補助金もあり生産は回復傾向。今後も、需要は安定見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> 欧州・米国・中国でEV車の販売が低迷している。このため二次電池設備投資が延期され、需要減速。
半導体・液晶市場	<ul style="list-style-type: none"> 想定されていた半導体市況の回復が後ずれ。当該製造装置メーカーでの在庫調整のため、需要は低調に推移する見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> 想定されていた半導体市況回復後ずれの影響を受けているものの、一部地域では回復の兆し。
化学市場	<ul style="list-style-type: none"> 市場全体として好調に推移。 化学薬品、製薬関連が好調。 無機薬品は低調。 	<ul style="list-style-type: none"> 北米では二次電池材料の製造投資が堅調であるが、欧州・中国では過剰投資及び自動車会社の方針転換などの理由で需要が極端に減少。 米国の半導体向け薬品製造投資は堅調。 欧州はエネルギー不足による投資意欲の低下が継続。
表面処理装置市場	<ul style="list-style-type: none"> 半導体市場の影響を受け、装置メーカーに不透明感あり。 	<ul style="list-style-type: none"> 半導体市場の影響を受け、当該市場も不透明感あり。 アジアでは緩やかに回復傾向にある。

※ 赤字はネガティブな見通し

基本方針

- ・ 配当性向30%超
- ・ 安定的な配当



Ⅲ. 今後の取り組みについて

2025年3月期までに

連結売上高：400億円（国内200億円、海外200億円）、連結売上高営業利益率：10%

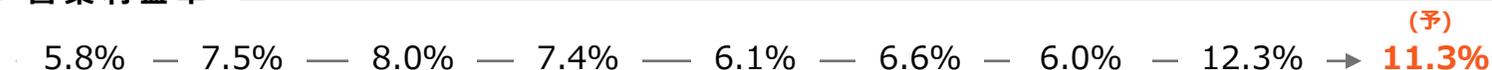
定量目標

種蒔期			育成期			収穫期		
2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期

連結売上高



営業利益率



定性目標

オールイワキで世界No.1を提供する
 ～ グループ一丸となり、世界No.1の製品、品質、価値、サービスを提供する ～

目標を達成するための姿勢 「チェンジ&チャレンジ」

～ 変革と挑戦に躊躇しない企業文化の定着を目指す ～

イワキグループ新ビジョン

2025年5月 発表予定

これからのありたい姿、新たな経営理念体系

私たちは「常に最前線で産業を支え、社会の発展と人々の幸福に寄与する。」という経営理念のもと、世界中のあらゆる場所で選ばれる製品を届けることで、社会に価値を提供してきました。今後も、さらに多様化するニーズに応え、人々の暮らしの流れを支え続けていく企業グループでありたいと考えています。その想いを込め、イワキグループの経営理念体系を改訂いたします。

経営理念	常に最前線で産業を支え、社会の発展と人々の幸福に寄与する。	
ありたい姿・ビジョン	全ての企業力を顧客への提案力にして、世界で一番信用される企業になる。	
	経営姿勢	行動姿勢
	価値ある製品、価値あるサービス、価値ある雇用環境を提供する。	何に対しても前向きに、創造性・独自性をもって、最後まで諦めない。

イワキグループ 新経営理念体系

(2025年1月1日～)

経営理念	常に最前線で産業を支え、社会の発展と人々の幸福に寄与する。	
ありたい姿	これからの暮らしの流れを支える Aid daily life globally, evolving for future needs.	
	経営姿勢	行動姿勢
	価値ある製品・サービス・雇用を提供し、 ステークホルダーの声に真摯に耳を傾け、事業活動に反映させる。	何に対しても前向きに、創造性・独自性をもって、最後まで諦めない。

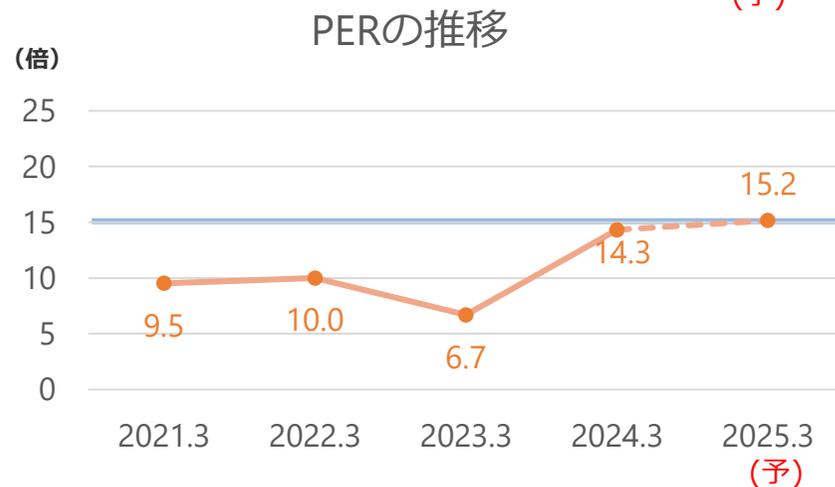
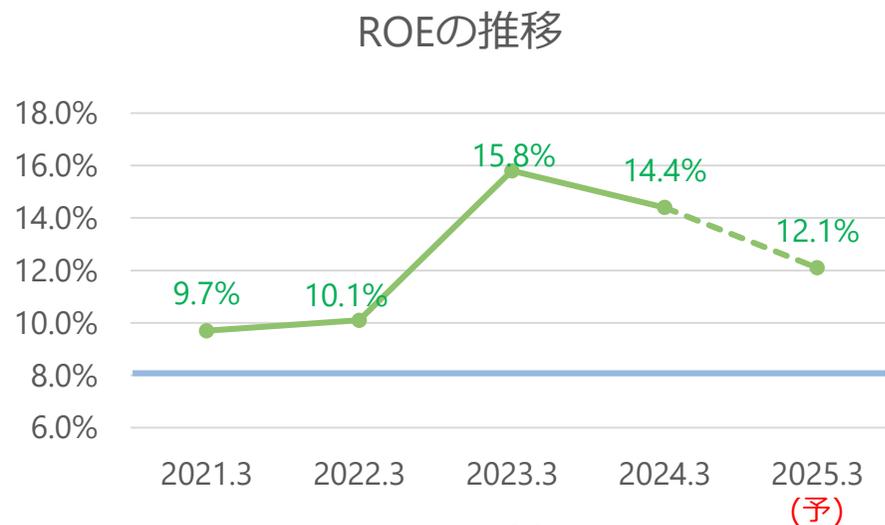
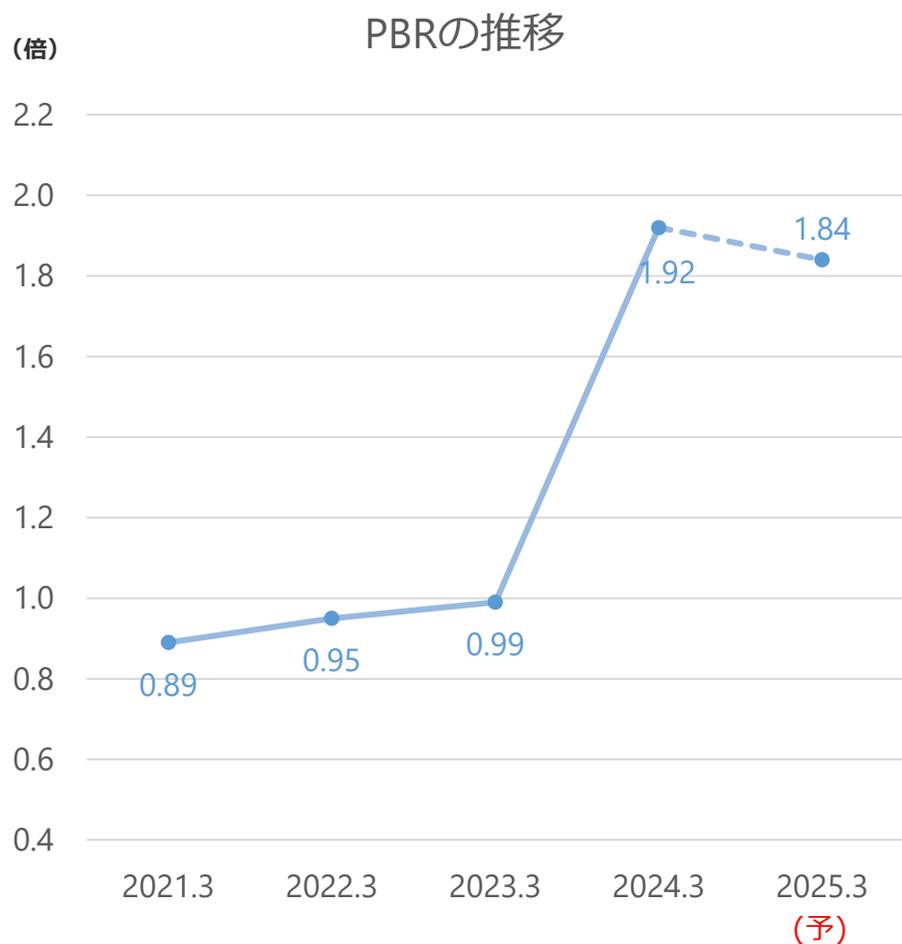


ありたい姿の実現と共に、ステークホルダーの皆さまにとって価値ある存在であり、愛される企業グループを目指して、さらなる努力を続けてまいります。

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

PBRはROE（収益）×PER（期待値）となる。PBRは前期末からようやく1倍超となったものの、PER（期待値）は業界平均と比較してもやや低い水準にある。

継続的なPBR及びROE向上のため、より中長期的な観点での取り組みの実施やその情報発信の強化が必要。





IV. Appendix



会社名 株式会社イワキ (英文名 IWAKI CO., LTD.)
 **ケミカルポンプ** の専門・総合メーカー

設立 1956年4月10日

代表取締役社長 藤中 茂

本社 東京都千代田区神田須田町二丁目6番6号

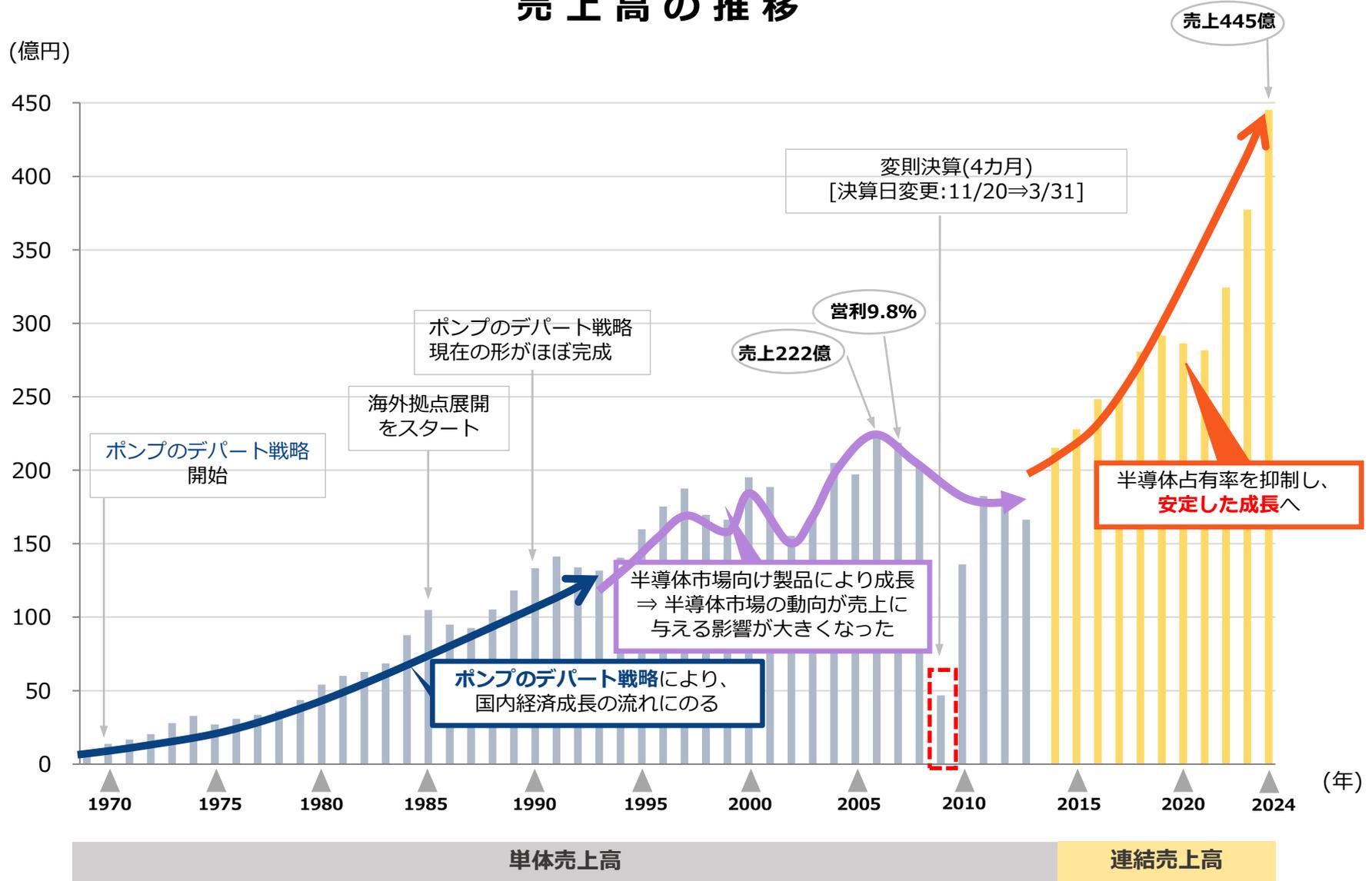
資本金 10億4,469万円

従業員数 連結：1,124人 / 単体：788人 (2024年3月31現在)

事業内容 ケミカルポンプ及びポンプ専用コントローラ等の周辺機器の開発・製造、仕入及び販売等

東京証券取引所
上場取引所 銘柄名：**イワキポンプ** / 証券コード：**6237**
市場：東証プライム市場

売上高の推移



ケミカルポンプとは



化学薬品等の薬液移送に使用されるポンプ



水を扱うポンプとは異なり、
ケミカルポンプは主に薬液等の移送時に使用される。
中には(人体に有害な硫酸等)危険な液体もある。



非常に高い **安全性** (漏れないこと)
が求められる

1

お客様の様々な要望にお応えできる
豊富な製品ラインナップ

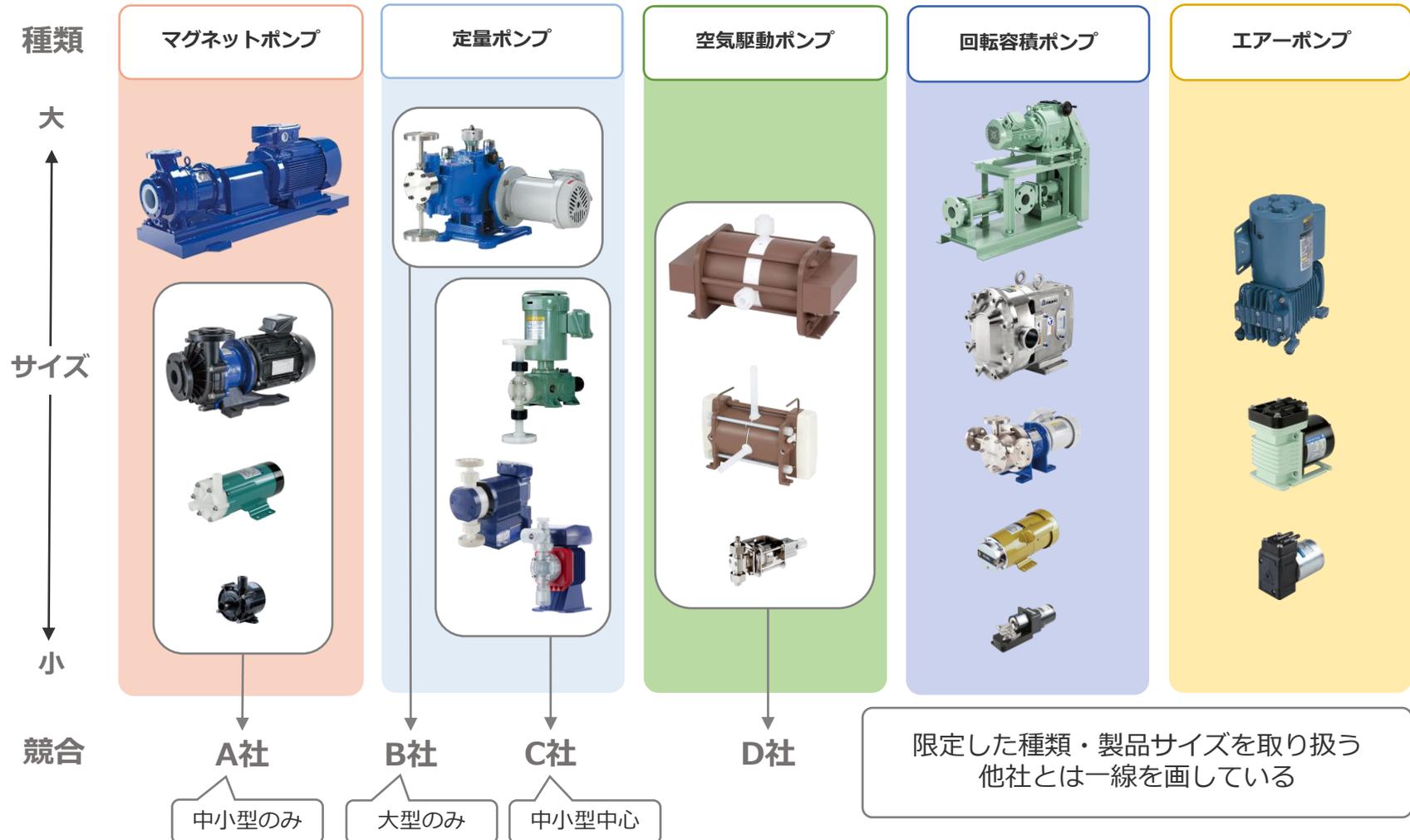
2

お客様への強力なサポートが可能な
世界規模の生産・販売・サポート体制

3

製品であるポンプを中心に
「流体を制御する」機能でソリューションも提供

各種ポンプ **60シリーズ以上**、**数万点にのぼる型式**を展開
あらゆる業界・現場の流体制御ニーズに、**ワンストップ**で応える



多品種少量生産を強みとしながら、**年間約80万台の生産能力**を有する

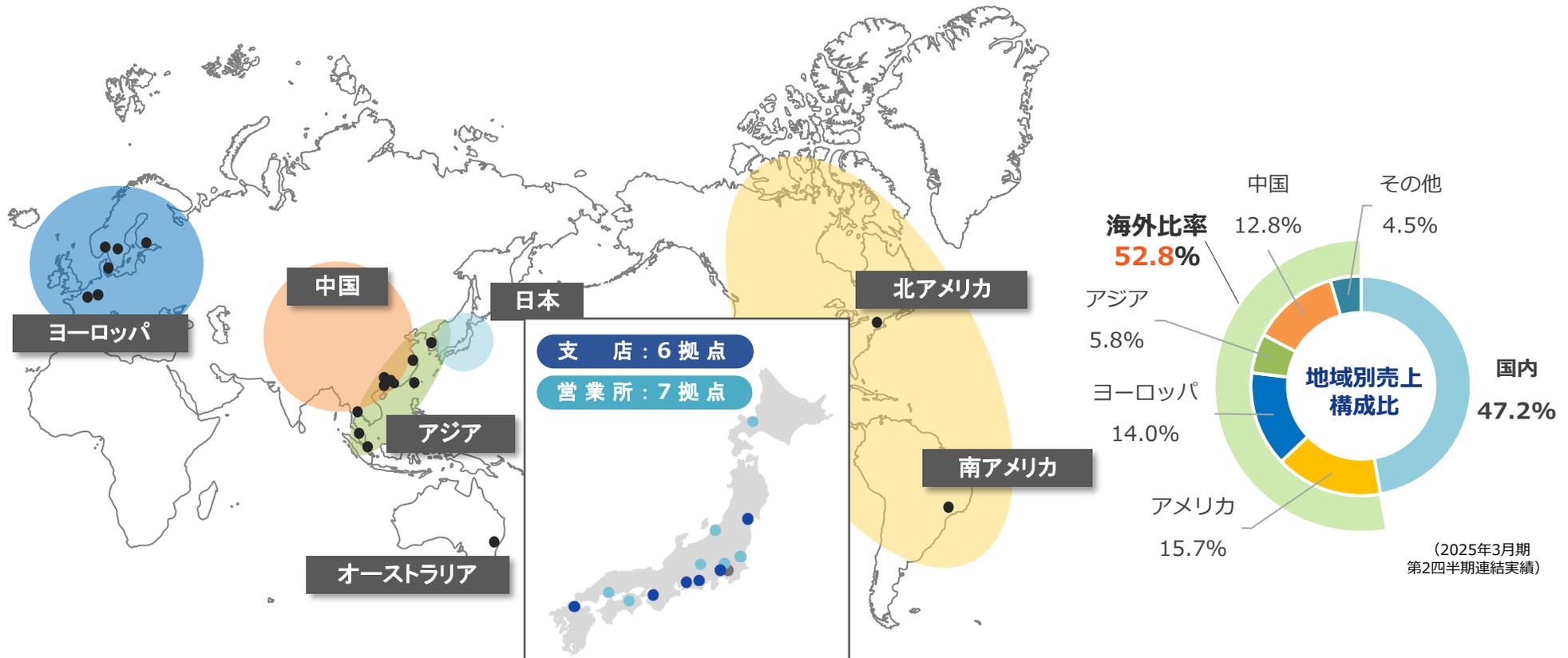
国内 … 多品種少量生産。強固な品質保証体制

海外 … 5拠点でのノックダウン生産*により短納期・在庫効率化

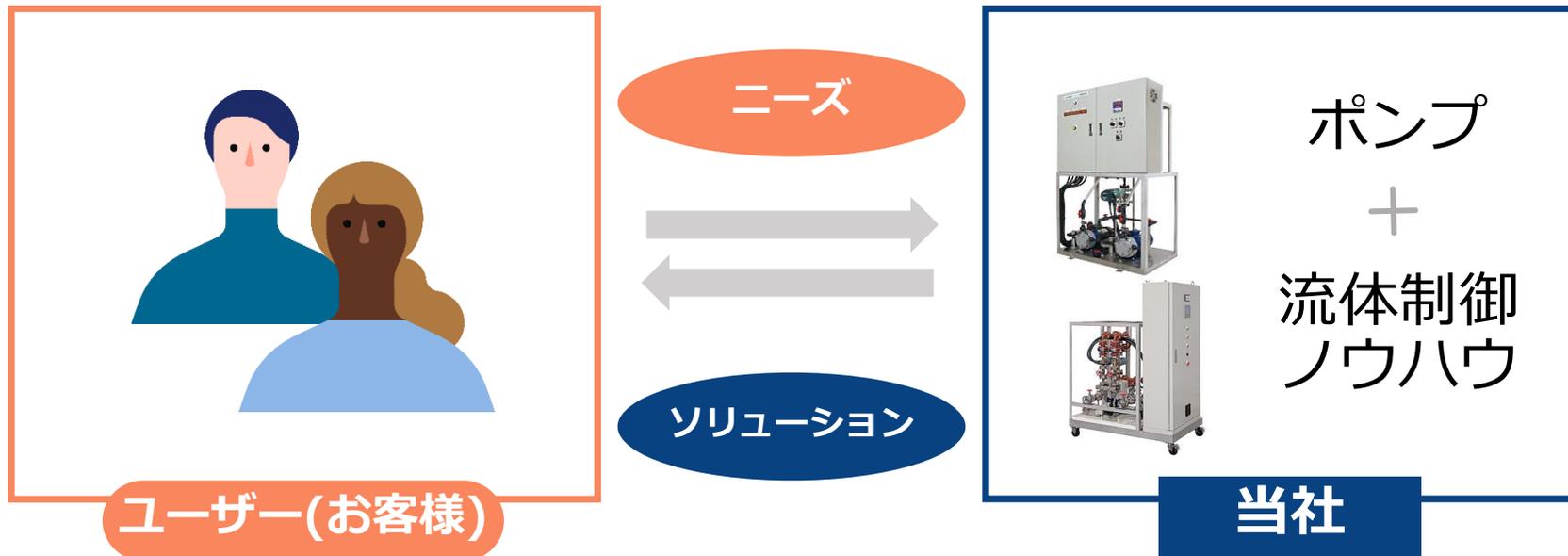
(*ノックダウン生産 … 製品の主要部品を輸出し、現地で組立する方式)



本社のほか国内主要13都市に支店・営業所を展開し、
15カ国20社のグループ会社で、ワールドワイドな販売・サービス網を構築



お客様の**ニーズ**にあった**ソリューション**を
ポンプと流体制御ノウハウを活用し提供





The Heart of Industry

社会の発展と人々の幸福に寄与すべく、
これからも常に最前線で産業を支えてまいります。

【お問い合わせ先】

株式会社イワキ 総務本部 総務部

E-mail : ir@iwakipumps.jp

受付時間 : 9時～17時30分

(土曜・日曜・祝日・その他当社休業日を除く)

- この資料は投資家の参考に資するため、株式会社イワキ（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、本日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。